

国府地区 人の輪プロジェクト
～地域の子ども体験を通して世代のバトンをつなぐ～

浜田市立国府公民館

1 浜田市立国府公民館の概要

私達の公民館がある浜田国府地区は、浜田市の東側に位置し、隣の江津市に接している。日本海に注ぐ下府川、石見国分寺跡や国指定の天然記念物「石見畳ヶ浦」、県内外から大勢海水浴に訪れる国府海岸など美しい自然環境、そして古代中世の史跡や文化財に恵まれた歴史の町に約 2,300 世帯が暮らしている。

地区内には 11 年前に統合された 1 つの中学校と 4 つの小学校 (内 22 年度は 3 校になる予定)、島根県立養護学校とろう学校、私立保育園・幼稚園がある。

2 事業の概要

(1) はじめに

実証事業名：国府地区 人の輪プロジェクト

実証事業のテーマ：地域の子ども体験を通して世代のバトンをつなぐ

実証事業のねらい

【地域課題】

- ① 少子化、核家族化、両親共働き家庭の増加などから、家庭や地域における子供の教育力の低下。
- ② 小中学校で PTA として地域活動に関わっていた保護者世代も子どもが学校を卒業するとそのつながりが切れてしまい、地域活動においても空白の世代となり活動の弱体化につながっている。
- ③ 国府地区内には地域活動に取り組む様々なグループや組織があるが、それぞれが思い思いに活動していて取り組みの重複や空白が生じ、相互連携や広がりを求めるネットワークが重要である。

以上の地域課題から学校、自治会、地域の諸団体の連携をとり、実証事業を通し子供から大人までのふれあいを深める。

公民館が既存の地域子供活動団体の運営補助をし、各団体との連携の拠点となり、コーディネートして多世代、各地域の住民を巻き込み継続的な地域活動へと発展させ、地域力を醸成する。

(2) 具体的な取組

① ふれあい海岸清掃

国府海岸を訪れる海水浴客、サーフィン愛好者と石見畳ヶ浦の観光客を合わせると年間 11 万人を超え、海岸整備は国府地区の大きな地域課題で海岸清掃が恒例の行事となっている。この行事に周辺の学校の子ども達や保護者、地域住民が参加し、異年齢の子ども同士、子どもと大人がふれあってボランティア体験をする事に意義があると考えた。

数年前まで学校、自治会、地域団体合同で海岸清掃を行っていた「青少年健全育成国府支部」に協力を要請し海岸清掃を行う事を決定した。

海岸に近い周辺の学校、自治会、地域団体に海岸清掃参加の依頼をし、快く引き受けて頂き、海岸清掃の内容や実施時期について話し合いを行った。その結果、今年度は学校の年間行事が既に決まっていた為、日程調整がつかず、今年度中の海岸清掃実施が不可能となった。実施日程は来年度始めまでに学校、各団体と調整し決定する事となった。

② 世代のバトンをつなぐ雪合戦大会

15年前に学校PTAと元PTA、地域の方が集まり地域子供活動の団体「子ども活動連絡会」を発足した。この会が主体となり子供達に本物の雪で思いっきり遊ばせてやりたいという熱い思いで、平成13年度に地区内の5つの学校のPTA、地域のスポーツ少年団、地域団体を巻き込み「第一回雪合戦大会」を開催した。雪が少ない年は山間部までトラックで雪を採りに行き中学校の校庭に運び雪球を作った。

経費負担と現役PTAの入れ替わりなどで会の運営が衰退していく中、公民館が参加する事で活動の更なる活性化を考えた。

子供活動連絡会と公民館で雪合戦大会実施に向け、各学校のPTA、地域団体に協力依頼をし、大会実施に向け話し合いと準備を始めた。

ボランティアで大会を手伝ってくれる中学生と大会スタッフの意識を高める為に「KOKUFU人の輪プロジェクトキャップ」をつくり、今後も雪合戦大会が継続出来る様に雪合戦の用具の雪球製造機、雪合戦ヘルメットの一部、審判ベスト等を購入し今後に備えた。



■ 1月31日（日）雪合戦審判の講習と練習会

この大会は雪合戦公式ルールではなく、みんなで楽しめる「国府ルール」となっている。



■ 2月6日（土）会場準備

会場の浜田東中学校には積雪が全くなかったため、雪を求めて広島県芸北地区に行き、雪が降る中、2tトラック軽トラック各2台に雪を満載し会場まで運んだ



■ 2月7日（日）大会当日

山陰の冬には珍しく晴天となった大会当日、会場には競技参加児童70名、審判や大会手伝いのボランティアとして中学生が30名、大会スタッフなどの大人が50名集まり開催された。

1チーム7名、他校との交流を深める為、学校学年混成とした。他に中学生、五校の教職員、PTA、スポ少保護者チームも競技に参加した。

試合に勝敗はつくが、優勝などは決めず、心から雪合戦を楽しみ、交流目的の大会とした。



雪合戦大会開会式



いざ合戦合図を待つ子ども達

大会スタッフのお父さん部隊は前日運んできた雪で雪球作りに、お母さん部隊はボランティアの中学生と一緒に豚汁とおにぎり作りに精を出した。

雪球作りで明日は筋肉痛？



200食の豚汁とおにぎり作り



競技審判をする中学生



戦いが終わりおにぎり
と豚汁に舌鼓をうつ生徒達

競技に参加していない子供達は残った雪山で大喜びで雪遊びをしていた。子供も大人も笑顔と笑い声が一杯の雪合戦大会となった。

3 事業の成果

- (1) 公民館が連携の拠点となった事により学校、自治会、地域団体への連絡がスムーズにとれた。
- (2) 2つの事業は以前地域団体が単独で行っていた事業だが、実証事業となった事により運営に厚みがでた。
- (3) 雪合戦大会開催した事により、なにより子どもと大人の楽しい交流ができた。

事業の課題

- (1) PTA や団体の役員、人事の入れ替えなどで事業の主旨を十分に理解されていない事がわかったので、早い時期から会議等を開き広く理解を得て意識の共有を高める。
- (2) 少子化により、事業参加人数が減ってきている。

4 今後の方向性

海岸清掃活動を通して、地域と公民館、学校や団体との連携をより一層深める。そして公民館利用者などのグループ・同好会を組織化し、地域活動に参加協力する組織への育成を図る。